



地域おこし協力隊って？

都心部から人口減少や少子高齢化などの課題を抱える地方へ移住し、地域の新たな担い手として農業・事業承継・情報発信などの「地域協力活動」を行いながら、地方への定住を目指す取り組みです。任期はおおむね1～3年。小坂町では現在4名の隊員（石橋辰耶、猪野直子、齋藤慶顕、田代俊之）が活動しています。最近の活動内容を紹介いたします！

◆小坂七滝ワイナリーでの芽かき作業

6月に入り「小坂七滝ワイナリー」のぶどう畑では、ぶどうの新芽が少しずつ伸び始めています。

新芽がたくさん出てくるこの時期に行われるのが、不要な芽を取り除く「芽かき」。ぶどうのツルはこれからどんどん伸びていくので、ツルが混み合い過ぎないように、葉にまんべんなく陽が当たるよう、早めに芽かきをして樹勢を整えるのは大切な作業になります。葉が茂り過ぎると、栄養状態だけでなく風通しも悪くなり、病気にかかりやすくなったりするそうです。

6月初め、石橋辰耶さんと齋藤慶顕さんが、小坂町観光産業課農林班の杉原班長より「どういう芽を取り除くべきか」のレクチャーを受け、初めての芽かき作業にトライしていました。

ぶどうの新芽は指でつまむと根元からポロリと簡単に取れます。ベテランの杉原班長は不要な芽を瞬時に見極め、あっという間にいくつも取り除いていきますが、初めて芽かきをする石橋さんや齋藤さんは、もちろん一つひとつ慎重に。一度取り除いた芽は元に戻せませんから、ドキドキです。

芽かき後は驚くほど成長が早まるのだそうです。数か月先のぶどう畑はどんな姿になっているのか、楽しみです。



スクスク伸びる「小公子」の新芽



下向き、元気がない芽をポキポキッと



「これ取っていいのかな？」と悩ましい



齋藤さん「どっちを残そう…」



石橋さんは草刈り職人化

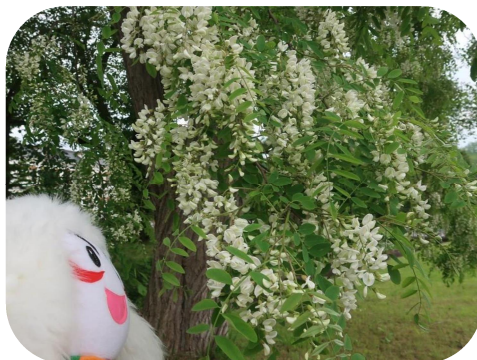
◆小坂町アカシアまつり 2025

6月7、8日、「小坂町アカシアまつり 2025」が小坂町中央公園で開催されました。今年はアカシアの花がまつりに合わせたように見ごろに。多種多様な露店やキッチンカー、華麗なステージイベントで、両日共にたくさんのお客様で賑わいました。

8日に行われた「アカシアの花の摘み取り体験ツアー」は大人気で、すぐに先着30名の定員がいっぱいに。摘み取った花は天ぷらにして味わうこともでき、参加者のみなさんはそれぞれにこの季節だけのアカシアの花を楽しまれていました。

「小坂七滝ワイナリー」のブースでは、アカシアまつり限定、華やかなピンク色の「アカシアピンク」を販売。夏のような陽ざしの中、冷えたグラスワインも人気を集めていました。

地域おこし協力隊の石橋辰耶さん、齋藤慶顕さん、田代俊之さんは、会場の設営や環境整備など、裏方として参加。晴天で7月のような暑さの中、おつかれさまでした！



小坂町かぶきん「見事な満開にござります！」



先着30名「アカシアの花の摘み取り体験ツアー」



猪野直子は小坂町国際交流協会（KIS）のクイズラリーに参加



会場内の環境整備に従事する田代俊之さん



まつり限定ワイン「アカシアピンク」

◆協力隊 Instagram のフォローもお願いいたします！



「小坂町地域おこし協力隊かわら版」はおおむね毎月10～15日ごろにゆるく発行予定です。みなさんの小坂町での暮らしや取り組み、イベントなどの情報をお知らせください！

編集・発行 小坂町総務課企画財政班（地域おこし協力隊 猪野） 0186-29-3907